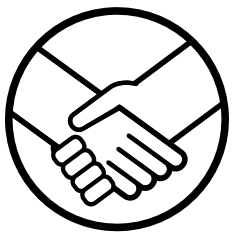


ともに歩む だから、日本にお願いしました



なぜ日本とともに歩むのか。日本が持つ技術や研究の協力要請をしたトルコを紹介する。

トルコからの便り Message from Turkey

トルコ共和国内務省防災危機管理庁 (AFAD) は、災害と緊急事態の管理・調整を実施するトルコ唯一の機関として、2010年に設立されました。私が代表を務める地震部では、国内の地震活動を24時間監視しています。

トルコと日本は歴史的にも長い友好関係を構築しています。その代表的な例が、明治23(1890)年に和歌山県串本町沖で遭難したトルコの軍艦エルトゥールル号に関するエピソードです。エルトゥールル号は日本での任務を終えた後、トルコに向かって帰国の途に就きましたが、猛烈な台風に巻き込まれてしまいました。沈没したエルトゥールル号の乗組員の多くは殉職しましたが、串本町の住民による懸命な救助活動の結果、69人が命を救われました。トルコの国民は、今もこの恩を忘れていません。

トルコは日本と同じく地震が多い国です。そのため、両国は防災分野でも協力を続けてきました。その歴史は、故・萩原^{なかつひろ}尊礼東京大学教授がイスタンブール工科大学に講師として招かれた1952年にまで遡ります。それ以降、たくさんのトルコ人が日本で研修を受けました。私が勤務するAFADでも、JICAで研修を受けた多くの人が活躍しています。さらに、1999年に発生したトルコ北西部地



Dr. Murat NURLU (ムラット・ヌルル)
トルコ共和国内務省防災危機管理庁 地震部長
Head of Earthquake Department
Ministry of Interior Disaster and
Emergency Management Presidency
Republic of Turkey

The Republic of Turkey Ministry of Interior Disaster and Emergency Management Presidency (AFAD) was established in 2010 as the sole agency in Turkey to manage and coordinate disaster risk reduction and emergency response measures in Turkey. In the Earthquake Department, of which I am the head, we monitor seismic activity across Turkey around the clock.

Turkey and Japan have a long history of cordial relations. A typical example is the episode involving the Turkish frigate Ertuğrul, which was caught in a violent typhoon on her way home from a goodwill visit to Yokohama in 1890 and subsequently drifted onto a reef and broke apart off the coast of now a part of the present-day town of Kushimoto in Wakayama Prefecture. Tragically, many of the crew perished, but 69 were saved through the frantic rescue efforts of local residents. The Turkish people have never forgotten their kindness.

Like Japan, Turkey is a country that is prone to earthquakes. It is only natural therefore that both countries continue their long history of cooperation in the field of disaster risk reduction. This can be traced back to the time when the late Professor Takahiro Hagiwara of Tokyo University was invited as a lecturer to Istanbul Technical University in 1952. Since that time, many government personnel and technicians have undergone training in Japan. Even within AFAD, we have many people who were trained by JICA in Japan. Furthermore, at the time of the earthquakes that occurred in northwest-

震や2011年のワネ地震の際には、日本からの国際緊急援助隊の派遣などを通じてさまざまな支援をいただきました。逆に、同じく2011年の東日本大震災の際にはトルコからもレスキューチームを派遣するなど、両国は困難なときに助け合ってきたのです。

私はこの分野で35年以上活動してきました。JICAとの初めての出会い、1993年に開始された「地震防災研究センタープロジェクト」でした。その後、2010年から「地震観測能力強化プロジェクト」にその成果が引き継がれ、日本人専門家と一緒にトルコの地震観測の強化に取り組みました。今後はトルコと日本が協力して、同じく自然災害のリスクが高い他の国とも私たちの経験を共有していくことが重要と考えています。

日本はたびたび大きな災害に見舞われましたが、その経験を生かして、防災を国全体で実践しています。

昨年12月には、両国政府間で防災協力に関する覚書が締結されました。ここまで両国の関係を強固なものにできたのは、JICAの協力があつたからこそです。トルコと日本の防災協力が今後ますます発展することを期待しています。

ern Turkey in 1999 and the Van earthquakes that occurred in 2011, we received help from Japan in the form of Japan disaster relief teams and other assistance. In the same way, on the occasion of the 2011 Great East Japan Earthquake, we sent rescue teams from Turkey, so we have al-

ways helped each other in times of trouble.

I have been involved in this field for more than 35 years. My first encounter with JICA was with the Earthquake Disaster Prevention Research Center Project that commenced in 1993. After that, from 2010, the work was carried forward by the Capacity Improvement Project on Seismic Observation in which we worked together with specialists from Japan to strengthen Turkey's seismic monitoring capabilities. In the future, we believe that it is important for Turkey and Japan to work together to share our experiences in this field with other countries that are at high risk from natural disasters.

Japan is frequently hit by large-scale disasters, but uses the experience gained through such calamities to strengthen disaster risk reduction activities throughout the country.

In December last year, a memorandum of understanding was signed between our two governments regarding cooperating in the field of disaster risk reduction. It is thanks to the work of JICA that Turkey and Japan have been able to build such a strong relationship. I anticipate this relationship to mature even further as we deepen our cooperation in this realm of disaster risk reduction.



左：2018年12月に行われた日本とトルコの防災協力覚書署名式の様子。下：2011年東日本大震災時、3週間にわたって救援活動を行ったトルコのレスキューチーム。



トルコと日本は、共同研究や研究者交流、留学生受け入れなど、防災の分野で半世紀以上にわたる交流を続けてきた。たとえば2010年から始まったJICAによる「地震観測能力強化プロジェクト」では、トルコ国内で独立して運用されていた情報をネットワーク化することで、地震観測態勢の効率化・改善を目指し、より質の高い、スピーディな地震情報の発出が可能となっている。

学術的な研究で 災害に備える

トルコでは、国土の北部を東西1000キロにもわたって北アナトリア断層が走っている。過去には、マグニチュード7以上の地震が多く発生し、最大の都市イスタンブールはマルマラ海底の断層から20キロ程度しか離れていない位置にある。マルマラ海底の断層でも地震の危険性が高まっているとみられるが、技術的にも経済的にも調査が困難だった。また、震源が陸地に近い場合、地震発生から津波の到着までの時間が短いため、より精密な観測と解析の態勢が必要だ。こうした中、日本の海洋研究開発機構や東京大学などが参加して、「マルマラ地域における地震・津波防災及び防災教育プロジェクト」がスタートした。

このプロジェクトでは、マルマラ海底の北アナトリア断層のモデルを構築し、海底の地震と地殻変動の観測などから得られるデータを解析。その結果を用いた地震シミュレーションによって、津波リスク予想や、早期警戒システムの実現に向けた開発と提案などが行われた。

トルコと日本の多くの関係機関が参加し、観測は長期にわたるものもあった。管理や調整は容易ではなかったが、研究者どうしのコミュニケーションにより研究が進んでいった。また、トルコ側からも、調査船の供与や活動資金の支援などがあり、効果的な実施に大きく貢献している。

また、その結果をもとに学生や教員、地方政府職員向けの地震・津波防災教育教材(動画とハンドブック)を製作したほか、各地域で防災に関するセミナーを実施した。地震や津波に対する備えや、災害時に落ち着いた行動をとるための心構えなどを伝えるため、メディアを招いた説明なども行われている。マルマラ海に接するブルサ県にある、日本での研修をきっかけに設立された「ブルサ防災館」



上：研究グループ内のコミュニケーション改善を行い進められた。右：マルマラ海において調査船から海底地震計を設置する作業。



災害にともに立ち向かう

トルコと日本の交流の歴史は深く、また両国とも「地震」という自然災害に国家を挙げて取り組んできた。技術の進歩によって新たな防災が始まろうとしている。

トルコにおける代表的な協力事例

- 地震観測能力強化プロジェクト(2010~2013年)
- リスク評価に基づく効果的な災害リスク管理のための能力開発プロジェクト(2013~2017年)
- マルマラ地域における地震津波防災及び防災教育プロジェクト(2013~2018年) SATREPS*

トルコ

国名：トルコ共和国
首都：アンカラ
通貨：トルコ・リラ
人口：7,981万人(2016年、トルコ国家統計庁)
公用語：トルコ語

欧州や中東、中央アジア、コーカサス地域の結節点という地政学的な要衝の地である。トルコ人は一般的にたいへん親日的で日本文化に対する関心が高いといわれる。2010年は「トルコにおける日本年」、また今年は「日本におけるトルコ文化年」とされる。

* 科学技術振興機構(JST)と日本医療研究開発機構(AMED)とJICAの3者が共同で実施する、地球規模課題の解決のために開発途上国の研究者との共同研究を通じて行われる技術協力。